

# なぜ、モズは はやにえを 食べずに残しておくのか？

西田有佑(大阪市立大学)

## 背景

モズは、捕えた獲物をとがった枝の先端や有刺鉄線に突き刺す行動をする(写真1)。突き刺された獲物や、突き刺し行動そのものは、モズのはやにえと呼ばれ、その機能はいまだ不明である。

はやにえは10-2月ごろ頻繁に観察することができる。観察された全てのはやにえの内、50%が11-1月中に消失することが分かっている。11-1月、モズは♂♀別の単独なわばりを構成していることと、他種鳥類を積極的に縄張り内から排除すること、冬期にはアリなどといった昆虫がほとんどいないことから、この期間のはやにえの消失は、「他種の生物や、同種他個体に食べられたのではなく、なわばりの主のモズが食べた」と解釈するのが自然である。私はモズのはやにえには貯食の可能性があると考えている。

貯食では、記憶力が大変重要になる。なぜなら、貯食した場所を覚えていなければ、必要なときに餌を回収できないからである。一方で、記憶力能力と、さえずりのレパートリー数(ヒトでいう語彙力のようなもの)の間には、負の相関があることがわかっている。何かを記憶すると、もう片方の記憶があいまいになるような経験は誰でもあると思う。レパートリー数が増えれば増えるほど、記憶力が落ちるということである。モズの平均レパートリー数は、 $193 \pm 35$  (mean  $\pm$  S.D., sample size=5)と大変多い(西田 未発表)。モズにも、レパートリー数と記憶能力の間に負の相関が存在するならば、レパートリー数が多いモズの個体ほど、はやにえの場所の記憶があいまいであるため、はやにえは同じ場所により長い間残っていると予想される。

# 目的

仮説演繹法による検証.

仮説：モズのはやにえは貯食の機能がある.

予想：はやにえの消失時間と

レパートリー数の中に負の相関がみられる.

# 方法

対象種:モズ(*Lanius bucephalus*)



調査地：大阪府河内長野市・富田林市の農耕地

調査期間:2015年9月-2016年1月

調査方法：対象となる個体のさえずりを録音し，レパートリー数を定量する．終日観察を実施し，各個体がはやにえをした場所，日時，大きさ，種などを記録し，いつそのはやにえが消失するかを調べる．

解析方法：レパートリー数と，はやにえの消失時期の相関を調べる．



写真1:モズのはやにえ(バッタ).  
枝先にほとんど形態に損傷のない,  
バッタがはやにえされている